

7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		商店街（代表者）	・猛暑の影響で8、9月は売上、来客数が底の状態であったため、後は上向きしかない。ただし、商店街にとっては上向くかどうかは死活問題となる。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・これから秋にかけて行楽シーズンが到来する。これ以上景気が悪くなる要素もないため、少しは良くなっていく。
		百貨店（売場主任）	・天候にもよるが、最近は各種商品の早期受注会が好調なことから、秋冬物の実需期には富裕層を中心に高額品が動き出す。
		百貨店（売場主任）	・気候の推移が通常に戻れば、現状よりも改善に向かう。ただし、人口減少や経済情勢の不安、物欲の低下、オーバーストアといった構造的な問題が解決されない限り、売上が根本的に良くなることはない。いずれにしても外的要因頼みであり、限られたパイをどれだけ奪えるかがポイントとなる。
		百貨店（営業担当）	・夏物衣料の動きが低調であったため、これから予定されている秋物衣料の特別催事には期待が持てる。新ブランドも含めた展開となることもあり、婦人物を中心に動きが出てくる。
		百貨店（マネージャー）	・可処分所得が短期間で急減しなければ、円高を背景にした輸入価格の下落が消費にはプラスに作用する。
		スーパー（店長）	・9月後半から気温の低下が進んでいるため、秋物衣料や食品の鍋物商材、住関連の寝装品といった季節商材の動きが活発化し、客単価もアップする。
		スーパー（企画）	・今年の冬は気温が低く、寒さも厳しくなると予想されているため、このまま気温が下がり続ければ、季節商品の動きも活発となる。特に冬は1品単価も上がるため、全体的に良くなる見込みが高い。
		スーパー（社員）	・競合店の出店などで商圏の状況が変化した地域は苦戦が続いているものの、既存店では売上の伸びている店舗が多いため、先行きはやや良くなる。この傾向は春から続いているため、食品に限っては良くなっている実感がある。
		住関連専門店（店員）	・気温が下がり、秋冬商品が売れ始める。
		高級レストラン（スタッフ）	・メニューの見直しやワインイベントのパンフレットへの広告掲載といった、新規客へのアプローチによる効果が出てくる。
		一般レストラン（経営者）	・景気が急激に回復する見込みは薄いですが、宴会シーズンが始まるため、戦略次第では良くなる。
		通信会社（社員）	・年末までは、地上デジタル放送関連の特需が続く。
		観光名所（経理担当）	・盛夏並みの残暑が遅くまで続いたことで、例年のような来客はみられなかったが、月半ばの3連休ごろから客が増え続けている。平日も以前に比べて来客数が増え、客単価もわずかに上がっている。10月は街中で様々なイベントや行事が予定されているため、集客面で効果が出る。
パチンコ店（店員）	・来客数が増えているわけではないものの、店に長時間滞在する客が増えているため、先行きはやや良くなる。		
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・今は景気が底の状態であり、良くなる要素も見当たらない。経済改革も進んでいないため、客の消費意欲も高まらない。
		商店街（代表者）	・客単価の下落が止まらないため、まだまだ安心できない。
		一般小売店〔花〕（経営者）	・景気回復の動きがなく、個人消費は更に落ち込んでいるほか、企業の経費削減の動きが進んでいる。クリスマス、正月商品の販売で売上は維持できるものの、それを景気回復とは呼べない。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・若い客は仕事などの収入面で厳しく、年配の客は年金の収入に不安がある。どの世代も安心できない要素があるため、厳しい状況は今後も変わらない。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・今回のたばこの値上げなどで、お金を使う場所が変化すれば、食品の売上にもかなりの影響が出る。これ以上悪くなる考えたくはないが、今までどおりの商売は成り立たなくなる。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・冬に向けて衣料品の売れるシーズンとなるが、ここ数か月の低調な販売量や来客数、客の様子をみていると、決して楽観はできない。
		一般小売店〔野菜〕（店長）	・今の状況では、上向くことは不可能である。

百貨店（売場主任）	・為替介入が行われたものの、円高による企業業績の先行き不安は消えていない。株価の低迷や給与の減少もあり、消費の回復する要素は見当たらない。
百貨店（売場主任）	・状況は今よりも若干良くなる可能性はあるが、大きく変わることはない。
百貨店（企画担当）	・秋冬物の動きに期待しているが、大きく好転するような商材は見当たらない。ただし、近隣にファストファッションの大型店がオープンするため、集客効果が出てくる。
百貨店（企画担当）	・冷え込みが進めば衣料品の動きは良くなるものの、今のところヒット商品は見当たらない。
百貨店（営業担当）	・ここ2、3年は買い控えていた富裕客も、徐々に高額ブランド品などを買い始める。ただし、無駄な買物はやめておくといった声も聞かれるため、消費全体が良くなるまでには至らない。
百貨店（店長）	・政治も含めて、先行き不透明感が強まっている。
百貨店（婦人服）	・円高や株安、対中外交などの不安が払しょくされ、企業業績が好転しない限り、良くなることはない。
百貨店（サービス担当）	・秋本番となり、北海道の物産展や正月のおせち商品の受付が始まる。年末にかけて忙しくなるものの、中国との外交問題で中国からの観光客は減少する。
百貨店（売場担当）	・ニューミセス、ミセス層の業績は前年並みか微増となっているが、今までのけん引役であったヤング層は低迷している。婦人服全体としては2、3か月前と同じく、前年実績付近を行ったり来たりの状況が続いており、なかなか前年を上回ることができない。今後も現在のような状況が続く。
スーパー（経営者）	・近隣には競合店が多いため、客はその日によって様々な店を買い回っており、今後もこのような動きが続く。
スーパー（経営者）	・サラリーマンの給与所得の減少が報じられるなど、消費者は更に節約志向を強めるため、良くなる要素が見当たらない。
スーパー（店長）	・先行き不安が払しょくされておらず、売上が拡大する要素は少ない。ただし、平城遷都1300年記念のプレミアム付き商品券が10月1日に発売されるため、一時的には良くなる。
スーパー（企画担当）	・競合店の出店予定を含めた経営環境には大きな変化がない。
スーパー（経理担当）	・高速道路料金が一部無料となり、行楽などの外出が増えている。秋の本格的な行楽シーズンが始まれば、休日の売上が意外に伸び悩む恐れもある。
スーパー（広報担当）	・今月はたばこ増税前の特需もあり、実力以上に売上が増えている。10月以降の反動減が懸念されるものの、急激な気温の変化で季節衣料に動きが出てきているため、全体として大きな変化はない。
スーパー（管理担当）	・短期間で好転する材料に乏しい。
スーパー（販売担当）	・客の間では、必要な物を必要な量しか買わない傾向が非常に強まっているため、今後も厳しい状況が続く。特にそう菜などの日持ちしない物は、店員に分量を変えてもらっても、本当に必要な量だけを買う客が増えている。
衣料品専門店（経営者）	・これから気温が大幅に下がれば秋物商品も動くが、秋物が売れないまま冬物商戦に移る心配もある。
家電量販店（店員）	・まだまだ世の中は不景気で、来店してもすべての客が商品を買うわけではない。
乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金が終わって新車の販売が芳しくないほか、車検や修理の受注もあまり良くないため、見通しは厳しい。
乗用車販売店（経営者）	・円高が進んでも外車の価格は変わらないため、販売は伸びない。客は様々な面で敏感になっているなど、良くなる要素が見当たらない。
乗用車販売店（営業担当）	・少しずつ販売単価が下がってきている。
乗用車販売店（営業担当）	・上向き要素は今のところ何もない。
住関連専門店（店長）	・エコポイント制度やエコカー減税といった、特定業界のみを対象とした消費促進策では景気の底上げにつながらない。当業界では景気対策の恩恵が全く感じられず、客は買物に慎重なままである。今後も企業努力で対応するしかないため、先行きの見通しは厳しい。
その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・暑い時期が終わって夏物商品の動きは鈍くなるものの、日々の気温の差が大きいため、風邪薬やインフルエンザ関連の動きが出てくる。

その他専門店〔食品〕 （経営者）	・今の厳しい状況が今後も続く。
その他専門店〔スポーツ用品〕 （経理担当）	・来年の春夏商材は12月以降に中国から在庫予定であるが、尖閣諸島問題で在庫が遅れる懸念も出てきている。
その他専門店〔宝飾品〕 （販売担当）	・今年の流行はファーを使った商品であるため、ジュエリーよりも低価格品の多い毛皮に人気が集まる。
一般レストラン（経営者）	・現状のような政治、経済情勢では、消費については今以上に追い風が吹くことはない。
観光型ホテル（経営者）	・今後もしばらくは厳しい価格交渉が続く。値下げによる売上減を宿泊客の増加ではとてもカバーし切れない。
観光型ホテル（経営者）	・各種イベントや婚礼の増えるシーズンとなり、売上は伸びるものの、猛暑で傷んだ箇所の修繕費などで収益は苦しくなる。
観光型ホテル（経営者）	・近隣の大きなイベントによって例年よりも良い実績が続いているが、本当に良いのかどうかは不安であり、先行きは不透明である。
観光型旅館（経営者）	・今年度に入ってゴールデン・ウィークや夏休みは利用客が増えたものの、平均すると減少気味となっている。今後も景気の動向次第では、年末にかけて低調な状況が続く。
観光型旅館（団体役員）	・宿泊単価は前年の水準を何とか維持しているが、客1人当たりの消費金額は減少しているため、今後も厳しい状況が続く。
都市型ホテル（スタッフ）	・宿泊部門は予約の伸びが足踏み状態となっているが、最終的には前年をやや上回ると予想しているほか、宴会部門も好調に予約が伸びている。
都市型ホテル（マネージャー）	・秋の観光シーズンを迎え、宿泊部門には若干期待できるものの、宴会部門の予約状況に大きな変化はない。特にオンシーズンとなるブライダルへの落ち込みが激しいため、ホテル全体では厳しい状況が続く。
都市型ホテル（営業担当）	・客室の予約は間際になって動くため、売上の予測が立てにくい。10月の一般宴会は、企業からの予約が間際になって伸びているなど、企業の自粛ムードが和らぐ期待もあるが、全体的な予約状況は依然として悪い。
旅行代理店（経営者）	・客がインターネットやテレビ関係の商品に流れている感がある。経済全体の閉そく感も強いいため、今後も厳しい状況が続く。
旅行代理店（広報担当）	・今年の年末年始の日並びは長期の旅行に向けておらず、今の状況が良くなることはない。客の間にも閉そく感があるため、状況は大きく変わらない。
タクシー運転手	・飲み会などがあった場合でも、電車のある時間に帰る傾向が続いており、何人かでタクシーチケットを利用して乗り合いすることもある。財布のひもを固く締め、必要最小限しか利用しない状況は今後も続く。
タクシー会社（経営者）	・タクシー業界は、今後も底の状態が続く。
通信会社（経営者）	・通信会社による代理店向け施策は下半期も変更されないため、大きな改善は起こらない。
通信会社（経営者）	・特に変化の兆しが見当たらない。
観光名所（経理担当）	・集客イベントを行っても来客数は一進一退で、客単価の低下もあり売上は低調である。商業施設もテナントの入れ替わりが激しく、状況は安定しない。しばらくはこの厳しい状況が続く。
その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕 （企画担当）	・景気対策が発表され、円高対策にも見通しが立ってくれば、国内の観光市場はもう少し活性化する。一方、海外からの観光客の増加は今後も続く。
その他サービス〔学習塾〕 （経営者）	・10月後半に無料体験サービスを行うため、その結果次第で生徒数に変化が出る。
その他サービス〔マッサージ〕 （スタッフ）	・オイルマッサージでは客が服を脱ぐため、暖かい季節になると来客数が増える。今年は夏の間も客が増えず、今も少ないままであるため、見通しは厳しい。
住宅販売会社（経営者）	・秋の需要期にもかかわらず目立った動きがないため、見通しは厳しい。
住宅販売会社（従業員）	・政治不信、円高傾向の継続で不安要素の解消が進んでいないなど、良くなる要素がない。
住宅販売会社（従業員）	・住宅の取得を推進する税制や金利の低下はこれ以上望めず、好調になる要素がない。
住宅販売会社（総務担当）	・住宅版エコポイントの延長などが決まれば動きも出てくるが、すぐには現状維持の状態から抜け出せない。

	その他住宅〔展示場〕 (従業員)	・政府から恒久的な新築住宅の需要喚起策が打ち出されない限り、現状維持が精一杯である。
やや悪くなる	一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・悪くなる要素ばかりで不安な日々が続いている。秋物商品の生産、仕入れを大幅に控えているものの、売れ残りの出る不安がある。
	一般小売店〔衣服〕 (経営者)	・景気の良くなる要素が見当たらない。
	一般小売店〔菓子〕 (営業担当)	・依然として回復の兆しはない。当社の商品はぜいたく品やし好品であるため、今後もなかなか回復しない。
	百貨店(売場主任)	・雇用不安や収入減に歯止めが掛からない限り、小売業ではパイの奪い合いが続く。雇用を生み出す企業を国がバックアップするなど、何らかの対策を講じない限り、明るい展望は開けない。
	スーパー(経営者)	・現在の売上は1品単価の変化に左右されているが、生鮮品の動きをみると、多少高額でも値ごろであれば購入は減らない。ただし、価格で他社との差別化を図らざるを得ず、工場生産の商品は相変わらず特売が続いている。したがって、生鮮品の単価が落ち始めれば、売上も減少傾向に逆戻りする。
	スーパー(店長)	・エコカー補助金の終了による悪影響が出てくるほか、円高傾向も続くと思われる。中国の尖閣諸島問題による政治不安も、消費に悪影響を及ぼす。
	スーパー(店長)	・たばこ関連の特需の反動もあって来月は苦戦するほか、今年に残暑で秋需要が飛んでしまう。その一方、冬の冷え込みが早い予想もあるため、衣料品や住関連は若干良くなる。全体としては、当面弱含みの動きが続く。
	コンビニ(経営者)	・たばこの売上が全体の20%を占めているため、10月以降の売上が落ち込む。
	コンビニ(経営者)	・10月1日からのたばこ増税を機に禁煙するという客が多いため、来店動機の減少に伴う来客数の減少が進む。
	コンビニ(店長)	・たばこのまとめ買いによる反動で、2、3か月は売上減が避けられない。たばこ購入のための来店も減るため、しばらくは来客数、客単価、販売量のすべてに悪影響が出る。
	コンビニ(店員)	・10月からのたばこの値上げにより、来客数、売上にかんりの影響が出る。
	コンビニ(広告担当)	・たばこ増税で禁煙、節煙が増えるほか、たばこの関連買いがあった商品の販売減も大きいため、売上のダウンは避けられない。さらに、猛暑で青果品や鮮魚の収穫量が減り、品質も下がっているため買い控えが出る。
	衣料品専門店(営業・販売担当)	・客との話題では、給料やボーナスの減少に関する内容が多いため、先行きはやや悪くなる。
	家電量販店(店長)	・エコポイント制度の延長に関する告知が少ない。今年の3月と同様に、終了時期を勘違いした客が12月に集中するため、来年1月の需要はある程度落ち着く。
	乗用車販売店(経営者)	・エコカー補助金が終了したため、これから中古車の需要が増える期待はあるものの、先行き是不透明である。
	一般レストラン(経営者)	・近隣の新興マンションの入居が始まったものの、期待したほど入居者数が多いとはいえず、忘年会シーズンはあまり来客数が伸びない。
	一般レストラン(スタッフ)	・8、9月の好調は猛暑による部分が多い。スーパーや百貨店はそれほど良くなかったことをみても、消費全体は上向いていない。猛暑後に景気が落ち込むという不安は、依然として解消されていない。
	一般レストラン(経理担当)	・経済や政策面の問題があり、先行きの見通しが全く立たない。客の消費意欲も低下しており、生活防衛のためにお金は使わないという姿勢が顕著となっている。
	その他飲食〔ジャズバー〕(店員)	・たばこ増税の影響が出てくるほか、接待費も削減されているため、来客数の減少が進む。
	その他飲食〔ファーストフード〕(店員)	・単価の低い売れ筋商品でもあまり売れない状況であるため、先行きの見通しは厳しい。
都市型ホテル(支配人)	・円高の影響もあり、輸出の伸びはかなり鈍化しつつある。輸入や海外旅行の大幅な増加にも期待できない。景気対策の実施や、中国との早期の関係修復に期待しているが、現状は回復の兆しが全くない。	
都市型ホテル(スタッフ)	・宿泊では中国からの観光客の動きが不安要素となっているほか、ビジネス客の上向く材料も見当たらない。宴会も既存客による開催取りやめが目立つことから、先行きは大幅なマイナスとなる。	
タクシー運転手	・現在の状況から判断すると、まだまだ景気は悪化していく。	

		テーマパーク（職員）	・実効性のある景気対策が政府から示されていない。自分自身を含め、周囲では不況が当たり前になりつつある。
		競輪場（職員）	・客の所得が増えるような政策もなく、売上の伸びる要素がない。
		競輪場（職員）	・世界景気の鈍化や物価の上昇、賃金の抑制、外交面の不安、円の急騰といった不安要素が多く、景気が上向くような兆しはない。
		その他レジャー施設 〔イベントホール〕 （職員）	・直近の調査で企業の業況判断は改善したものの、為替介入などの政策効果の息切れや外交問題の迷走で先行きが不透明になっており、景気に悪影響が出てくる。
		その他レジャー施設 〔球場〕（経理担当）	・プロ野球のシーズンが終了し、今後は企業イベントといった集客力の小さなイベントが中心となる。
		住宅販売会社（経営者）	・不動産需要の伸びる要素が見当たらない。
		その他住宅〔情報誌〕 （編集者）	・円高で企業業績が圧迫されるため、徐々に個人消費にも悪影響が出始める。住宅購入意欲は様々な支援策によって堅調に推移しているが、今後は減速感が出てくる。
	悪くなる	一般小売店〔雑貨〕 （店長）	・たばこが大幅に値上げされる10月以降は、今まで以上の落ち込みとなる。
		衣料品専門店（経営者）	・当店で買物する客は投資などでそれなりに収益を得ている人が多く、収益の悪化と共に来店頻度が減少するため、先行きの見通しは厳しい。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー補助金の終了後は、極端に来客数が減っている。10月以降の状況は全く予測不可能であるが、現状から推測するとかなり悪くなることは間違いない。
		その他専門店〔宝石〕 （経営者）	・株安や円高のほか、政治に対する不信感が不安材料となっている。
		その他住宅投資の動向 を把握できる者〔不動産 仲介〕（経営者）	・景気全体がまだ下げ止まっていないため、先行きの見通しは厳しい。
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・既存の事業は更に悪化しているものの、新事業は売上、利益共に伸びている。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・国や地方の政策のなかで、保育所の増設や学校の耐震化工事に期待している企業がある。現に多くの工事が進んでおり、環境やシックハウスに対応した商品を提供している企業は業績が伸びている。販促もそれらの業界に関する売上は好調であるため、先行きはやや良くなる。
		その他製造業〔履物〕 （団体職員）	・業界内では中国生産をやめて国内に回帰する動きもあるため、先行きはやや良くなる。
		広告代理店（営業担当）	・製造業と、それに関わる派遣会社の広告が増えつつあるほか、問い合わせも全般的に増えているため、先行きはやや良くなる。
		広告代理店（営業担当）	・気温が下がれば秋冬物が動き出す。例年は10月からの動き出しとなるため、先行きはやや良くなる。
	変わらない	食料品製造業（経理担当）	・客の買い控えが続いており、回復は困難である。
		家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・配達量に変化がないため、今後も状況に大きな変化はない。
		化学工業（経営者）	・業績も前年に比べれば良くなっているが、更に良くなるまでの力強さはない。
		化学工業（企画担当）	・パーム油の国際相場が大豆を上回る高騰をみせているほか、大豆も中国で不作となったため、今後は値上がりが進む。年末の需要期への影響が不透明で、不安な状況となっている。
	プラスチック製品製造業（経営者）	・回復基調は続いているが、勢いはない。今後は対中関係の悪化による影響が懸念されるものの、全体的には現状維持となる。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・仕入れ先や販売先をみても、良くなる材料が見当たらない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・引き合いが順調にきているため、今後数か月は今の好調が続く。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・円高が今後更に進む可能性があり、取引先はインドネシアやベトナムを重要視し始めている。ただし、設備は引き続き国内で調達する。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・外部環境に懸念すべき動きが増えているため、先行きが不安である。また、円高が進み過ぎているため、最近では価格提示の際に、当社の負担により1ドル92円で換算している。	

	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・エコポイント制度やアナログ放送終了前の年末商戦となるため、好調な荷動きが期待できる。ただし、需要を先食いすることへの懸念もあるため、良くなるとは言いがたい状況が続く。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・引き合いや受注件数がなかなか増えないため、今後も厳しい状況が続く。
	建設業（経営者）	・景気回復の兆しがみられない状態で、積極的に設備投資をする会社は少ない。政府の早急な景気対策がなければ上向くことはない。
	建設業（経営者）	・年末にかけて多少の需要はあるとしても、受注単価の低下傾向は止まらない。
	輸送業（営業担当）	・家電部品大手による生産が回復しつつある。9～11月は増産予定で荷物量が増えるため、少しは回復に向かう。
	輸送業（営業所長）	・新規案件は条件が厳しいなど、先行きの見通しが立たない。
	金融業（支店長）	・今後は中小企業の業績が更に悪くなるため、新築物件に対する消費者の買い控えの動きも顕著になってくる。
	新聞販売店〔広告〕（店主）	・底ばいの状態で、折込広告も自動車や不動産といった定番業種が減ったままであり、上向く気配がない。
	広告代理店（営業担当）	・現状は広告出稿に対して前向きな業界が見当たらない。
	経営コンサルタント	・様々な懸念材料が一段落した状態ではあるものの、顧客企業の経営者からは積極姿勢には変わらないとの声が聞かれる。
	経営コンサルタント	・顧客企業の状況に回復の動きがみられない。
	司法書士	・事件数の少ない状態が続いており、良くなる要素もないため、今後も厳しい状況が続く。
	コピーサービス業（従業員）	・中国との関係悪化は何とか回避できたものの、今後の中国人観光客の動きや、中国からの輸入に対する影響は深刻なものとなる。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・上向く気配が感じられない。
	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・引き合いや見積り依頼などの非常に少ない状況が続く。
やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・気温が徐々に下がっており、食品には良い状況になりつつあるが、中国問題などで政治不安が広がり、消費者の購買意欲が低下する。原材料の安定供給に支障をきたす可能性もあり、良くなる要素はない。
	繊維工業（団体職員）	・タオル産地として最需要期を迎えるが、綿糸価格の高騰や円高による景気の低迷もあり、見通しは非常に厳しい。
	繊維工業（総務担当）	・販売量の増加を求めるあまりに価格の低下を招き、利益が圧迫されているなど、今後の見通しは厳しい。
	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・円高の影響を受ける取引先もあり、値下げの依頼が増えているため、今後はやや悪くなる。
	金属製品製造業（経営者）	・米国からの自動車部品の調達が日本から欧州へ変わってきているなど、先行きの見通しは厳しい。
	金属製品製造業（総務担当）	・建設関係の需要が先細っており、政府の補正予算で追加景気対策が組まれなければますます厳しくなる。
	金属製品製造業（管理担当）	・中小企業向けの休業補償制度を利用しながら経費削減を進めているため、制度が終了すると経営がますます厳しくなる。
	電気機械器具製造業（企画担当）	・景気の雲行きが怪しいため、年末にかけて顧客の間に様子見の動きが広がる。今後は販売が伸びにくくなるほか、品切れとなっている部品もあるため、第3四半期の動きは前年並みにとどまる。
	電気機械器具製造業（営業担当）	・これから円高による悪影響が出てくる。
	電気機械器具製造業（経理担当）	・APECの開催に伴う警備体制の強化で、警察の内部が人手不足となるため、警察の認可が必要な業種では新規設備の導入が停滞する。
	その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・原料の綿糸価格が9月後半から一段と上昇し、特に中国メーカーの出荷額が大幅に上がっているため、先行きは非常に不透明である。工場が綿糸を手当てできずに納期遅れが頻発しているほか、日中関係の悪化で通関も遅れている。また、通常は円高の進行で輸入価格が下がるものの、多くの企業が円安時に為替予約を行っているため、メリットを受けられていない。

	悪くなる	繊維工業（総務担当）	・今年前半は繊維製品が全体的に低調であったため、年後半には持ち直すとの期待感が強かったが、猛暑により秋冬物の商品展開にも悪影響が出てくる。
		化学工業（管理担当）	・米国景気の回復が遅れるほか、エコカー補助金の廃止、急速な円高、株安や原料相場高により、販売数量が大きく減少する。
		金属製品製造業（営業担当）	・円高による空洞化や輸入品の増加により、中小製造業はますます苦境に追い込まれていく。
		一般機械器具製造業（設計担当）	・対中関係の悪化といった不安要素も多く、株安が進むほか、経済政策にも期待できないため見通しは厳しい。
		不動産業（営業担当）	・当地域からテナントの流出が続いている。ある大手企業が不採算事業から撤退することもあり、地元の downstream 企業にも撤退の動きが出始めている。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者） その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・良くなる要因が見当たらない。 ・円高や、株安などの要因により、今後も悪い状態が続く。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	職業安定所（職員）	・今月は郵便で年末繁忙期の臨時求人が大量に出たほか、11月には管内主要駅前に家電量販店がオープンするため、出店テナントからの大口求人がきている。ただし、新規求人数は前年比15%増と堅調に推移しているものの、一般求人が20%減で、パート求人が61%増と、依然としてパートが中心となっている。本格的な回復にはまだまだ時間が掛かる。 ・新卒雇用に関しては政府の具体的な支援策が発表されたため、やや良くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・これまで製造業の派遣求人は順調に回復してきたが、やや落ち着いてきた感がある。事務職の派遣求人についても、底は打ったものの動きはまだ鈍く、当面は大きく改善しない。
		人材派遣会社（経営者）	・最近の円高により、企業は求人に関してかなり慎重な姿勢となりつつある。ただし、必要な人材を正社員で採用する企業も多いなど、底堅い動きはみられる。
		人材派遣会社（支店長）	・年末商戦に向けて企業からの派遣依頼は増えるが、全体的な受注は減少が予想されるなど、状況の好転する材料が見当たらない。
		職業安定所（職員）	・新卒の求人倍率が前年よりも悪く、事業主が求人を再び控えている感があるものの、新たな支援制度の導入による影響も出てくる。
		職業安定所（職員）	・事業所からは、今は仕事があるものの、エコカー補助金やエコポイント制度の終了、円高などで先行きが非常に不安といった声が多い。今後は、最近続いてきた求人の増加傾向に水が差さされる。
		職業安定所（職員）	・パート求人が依然として多く、フルタイム勤務でも時給制となっているケースがあるなど、景気の本格回復にはまだ時間が掛かる。
		民間職業紹介機関（大学担当）	・為替水準をはじめとする経済環境の改善が進んでいないため、企業の採用動向は上向かない。
		民間職業紹介機関（営業担当） 民間職業紹介機関（支社長）	・具体的な好材料が見当たらない。 ・円高による製造業への悪影響が懸念されるなど、求人数が今後も順調に増えるには明るい材料が少ない。実際の商談でも、国内での採用よりも海外での人材調達に関する話題が増えている。
やや悪くなる		人材派遣会社（役員）	・政府の景気拡大への方針が不明確で、施策に新鮮味も感じられない。その一方、派遣規制の強化を見据えて、企業は人手不足に社員の残業増で対応せざるを得ない状況となっている。前年の最悪期は脱したものの、求人の伸びは頭打ちとなっており、政策への失望感が広がっている。
		人材派遣会社（支店長）	・銀行の貸し渋りが始まっているとの声が聞かれるため、中小企業の経営に影響が出てくる。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・政府からは具体的な雇用対策が何も打ち出されていないほか、中国問題も今後の経済動向に大きな影を落とす。
		新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・年末や期末に向け、企業は業績確保や会社の存続をかけて人事の効率化を進めるため、求人広告の動きは悪くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・まだまだ回復の兆しがみられず、先行きは更に悪くなる。特に、関西の地場産業からの動きがない。

	職業安定所（職員）	・エコカー補助金終了前の駆け込み需要により、販売が大幅に伸びたものの、その反動で国内販売に大きな影響が出る。尖閣諸島問題で中国との関係が悪化しているが、関係修復までの期間が長引けば、経済や雇用情勢にも大きな影響が出る。
悪くなる	-	-